

信州中野クリエイティブミーティング で市民の皆さんと考えたこと

地域文化を創造する市民の広場



文化政策専門家、アーティストを講師に迎えながら
新市民会館の新しい形を話し合う会議。8月8日～11月9日7回開催

新市民会館のキーワード

新たな始まり。今までとは違う、面白い、楽しい、ステキなことが起こる場所。

開かれた空間・憩い潤いの場(オープンスペース)

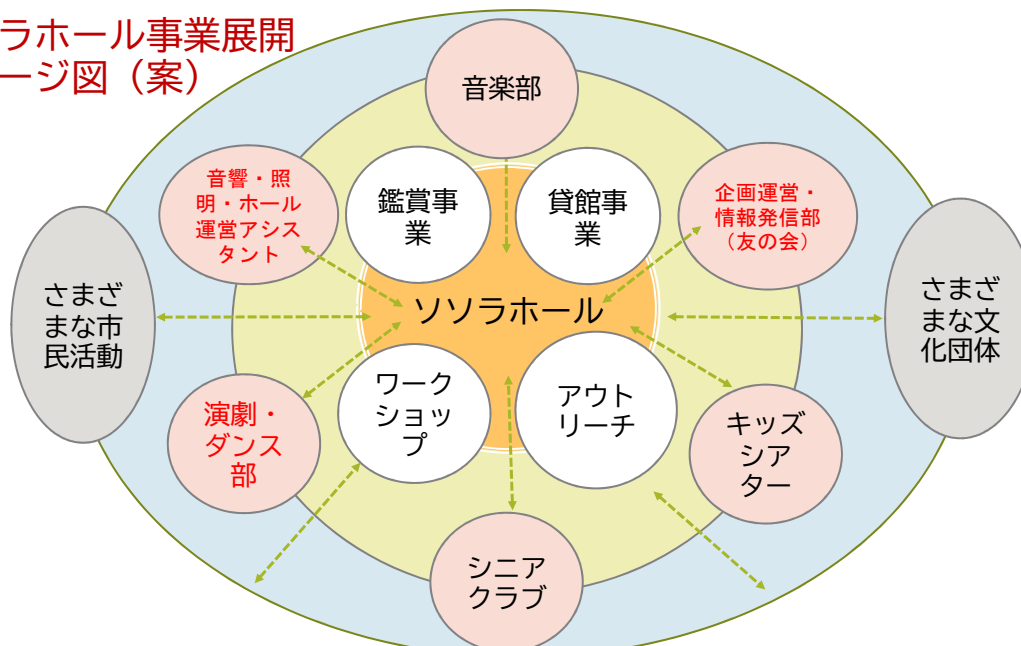
誰もが楽しく集う市民の広場(交流の場)

多様な文化のプラット・フォーム(創造拠点)

市民が地域の文化と未来を拓く(文化によるコミュニティ創造)

コーディネーターの配置による質の高い事業

ソソラホール事業展開イメージ図(案)



プレ企画からオープニングまで

中山晋平・高野辰之にちなんだ市民参加型の創造プログラム

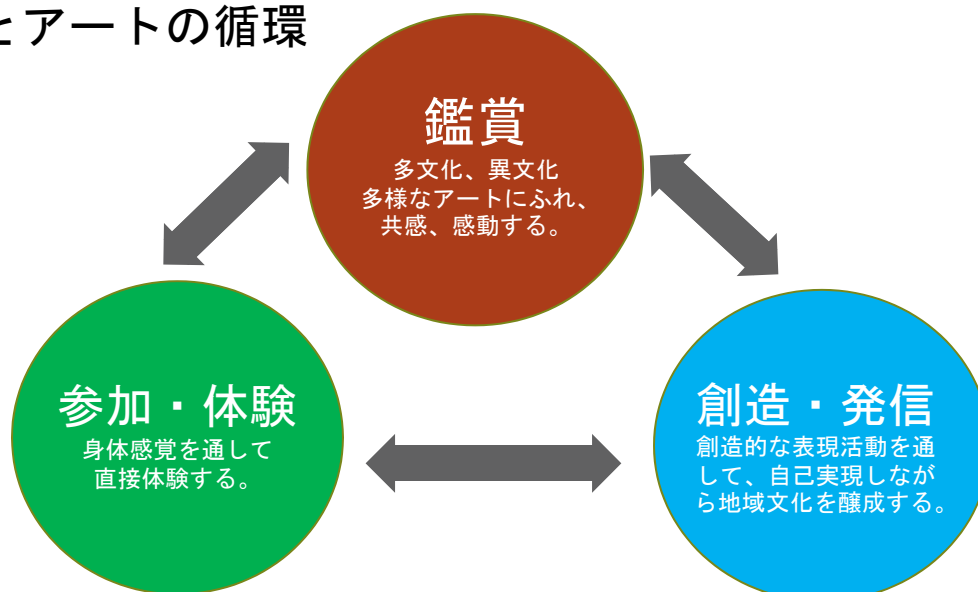
プレ企画として上記2つのコンセプトに基づいたいくつかのプロジェクトを立ち上げ開館記念イベントに向けて素材を創る

さまざまな文化が交流融合する市民による創造プログラム

《仮》市民参加型総合オープニング祝賀祭

演劇・音楽・ダンス・その他さまざまなジャンルが融合する創造ステージ
ロビーコンサート、ギャラリー展示、ワークショップ、マルシェ、トークショー、
etc.

人とアートの循環



公立文化施設の持続可能な文化活動とは

開く = ハード：入りやすい雰囲気。くつろげる空間。
ソフト：職員笑顔。市民の立場に立つ。事業はすべての市民が対象。

繋ぐ = 市民が交流する仕掛け。多文化、世代、障害者、マイノリティを繋ぐ意識。

創る = 創造力が人と地域を活性化させる。すべての人はアーティストである。
鑑賞事業⇒参加体験事業、創造事業。消費する文化芸術から創造する文化芸術へ

居場所 = ハード：ここにいていいんだという雰囲気。サードプレイス。
ソフト：誰もが参加できる、傍観者もウェルカム。

役割 = 人には必ず何かの能力が宿っている。それを生かせる環境づくり。